

【別紙1】機能要件一覧

《凡例》

◎機能区分

必須 …必ず何らかの方法で実現すべき「必須機能」

任意 …必須ではないが、実現を望む「任意機能」

大分類	中分類	小分類	機能概要	項番	機能要件	機能区分
建設仮勘定等の入力・管理機能	共通機能		建設仮勘定管理に必要なコードや権限等について、設定を行う。	1	(固定資産台帳の管理) 総務省が発行する統一的な基準による地方公会計マニュアルに即した、固定資産台帳の作成、固定資産台帳の管理が可能であること。 総務省による地方公共団体財務書類作成の制度変更は原則保守業務の範囲で対応するとともに、システム構築までに判明済の制度変更（令和6年12月付け「今後の地方公会計のあり方に関する研究会報告書」に係る改修等）は本業務の範囲として対応すること。	必須
				2	本市指定の照会用エクセル様式（【別紙3】参考資料（現行の照会用エクセル様式）参照）を改良又は開発して資産整理台帳（建設仮勘定）の管理と入力ができること。	必須
				3	論理的には成立するが特に注意を要する入力等（アラート項目は協議決定）は、アラートとして注意喚起（※）すること。  ※ アラート：論理的には成立するが特に注意を要する入力等について、注意喚起の表示を経た上で、当該入力等を確定できるもの。  ※ 注意喚起の表示例：次画面に遷移する際などに、ポップ表示『本当に確定してよいか。』等の注意喚起をすることを想定	必須
				4	システム（付随する照会用エクセル様式を含む。以下同じ。）の操作方法や運用方法等について、マニュアルを有していること。	必須
				5	システムに会計区分コード、所属コード、勘定科目コード、仕訳情報等を登録、修正、削除できること。	必須
開始建設仮勘定取込			既存の建設仮勘定台帳の取り込みを行う。 （移行時に一度行うことを想定）	6	（開始建設仮勘定台帳） 既存の建設仮勘定台帳を変換し、システムに取り込むことができること。	必須
				7	建設仮勘定台帳の取り込み結果を確認することができること。 取り込みデータに不具合がある場合は不具合内容が分かること。 不具合のあったデータは取り込めないか、再度取り込み直すことができること。	必須
建設仮勘定登録			資産整理台帳（建設仮勘定）の準備を行う。	8	（資産整理台帳（建設仮勘定）への出力） DXツールに登録されている建設仮勘定の内容を資産整理台帳（建設仮勘定）に出力できること。 資産整理台帳（建設仮勘定）を新しく作成する場合はDXツールで発番した番号（建設仮勘定ID）を資産整理台帳（建設仮勘定）に出力できること。	必須

【別紙1】機能要件一覧

《凡例》

◎機能区分

必須 …必ず何らかの方法で実現すべき「必須機能」

任意 …必須ではないが、実現を望む「任意機能」

大分類	中分類	小分類	機能概要	項番	機能要件	機能区分
			資産整理台帳（建設仮勘定）の入力を行う。	9	（資産整理台帳（建設仮勘定）の入力） 資産整理台帳（建設仮勘定）は入力する項目をリスト化するとともに、選択項目によってリストの表示項目の絞り込みや入力不要のセルをグレーアウト（セルロック）できる等、手入力の誤りを抑える仕組みを有すること。	必須
				10	資産整理台帳（建設仮勘定）を用いて建設仮勘定となる支出を年度、事業又は工事の単位毎にD Xツールに登録できること。	必須
				11	資産整理台帳（建設仮勘定）に入力した資産形成につながる支出額を建設仮勘定の増加としてD Xツールで管理できること。	必須
				12	資産整理台帳（建設仮勘定）は費目毎の資産形成につながる支出額を入力できること。 資産形成につながる支出額の入力単位（節毎、伝票単位毎等）は入力する所管課が選択して入力できること。 費目は工事請負費や委託料等、固定資産取得に関する節を選択できること。	必須
				13	資産整理台帳（建設仮勘定）は財務会計システムに登録のある固定資産台帳番号や固定資産単位の当年度完成資産の金額、会計、勘定科目等を入力できること。 勘定科目は固定資産台帳に登録した勘定科目以外に物件費、維持補修費、資産除売却損の費用科目も入力できること。	必須
				14	資産整理台帳（建設仮勘定）に入力した当年度完成資産の金額を建設仮勘定の減少としてD Xツールで管理できること。	必須
				15	資産整理台帳（建設仮勘定）に入力した調査判明（増・減）を建設仮勘定の増減としてD Xツールで管理できること。	必須
			資産整理台帳（建設仮勘定）をD Xツールに取り込む。	16	（D Xツールへの取り込み） 資産整理台帳（建設仮勘定）を申請することで入力内容をD Xツールに登録することが出来ること。 資産整理台帳（建設仮勘定）の申請時にD Xツール側で論理チェック（※）を実行し、入力内容に不整合が生じた場合、取込エラーを所管課にて判断し、修正可能な情報を提供できること。 ※申請データをD Xツール取り込む前に、資産整理台帳（建設仮勘定）のエクセル様式又はD Xツール内のいずれかで不整合チェックを実行し、所管課へエラー内容を返すことを想定	必須
				17	D Xツールを用いて管財課が資産整理台帳（建設仮勘定）の入力内容を確認（※）できること。 ※No. 16のチェック機能等により、所管課の申請データに誤りがない状態で管財課が最終確認できることを想定	必須

【別紙1】機能要件一覧

《凡例》

◎機能区分

必須 …必ず何らかの方法で実現すべき「必須機能」

任意 …必須ではないが、実現を望む「任意機能」

大分類	中分類	小分類	機能概要	項番	機能要件	機能区分
				18	(資産整理台帳(建設仮勘定)の管理) 本市指定のエクセル様式(資産整理台帳(建設仮勘定))の管理を保守業務の範囲で基本対応すること。	必須
	台帳検索・照会		建設仮勘定の検索・照会を行う。	19	(台帳検索) 検索条件の入力がない場合は全件出力を原則可能とすること。 検索機能について、あいまい検索(※)ができること。 ※あいまい検索:文字列・年月日の部分一致で検索できること。カタカナ検索は清音・濁音・半濁音による違いを無視できるとともに、拗音、促音の小文字及び大文字による違いを無視できること。西暦及び和暦はそれぞれ対応する年に置き換えられ検索できること。 検索件数結果の表示、検索条件を保存できる機能を有すること。	必須
		20		指定した会計、所属毎の建設仮勘定の一覧を照会できること。検索結果の出力ができること。	必須	
		固定資産台帳等出力		公表用の固定資産台帳、仕訳帳、附属明細書を出力する。	21	(固定資産台帳出力) 建設仮勘定の全件情報を出力できること。また、異動情報の期間(年度)を設定できること。
	22		建設仮勘定の固定資産台帳出力は『統一的な基準による地方公会計マニュアル(令和7年3月改訂)(以下「総務省マニュアル」という。)]別紙2「固定資産台帳の記載項目」の順に沿って出力できること。 出力帳票はEXCEL形式等、加工できる形式であること。		任意	
	23		指定した年度の最終データを出力できること。(指定する年度は登録した過去の年度も含む)		任意	
	24		(仕訳帳出力) 資産整理台帳(建設仮勘定)に入力した費目毎の資産形成につながる支出額を用いて建設仮勘定の仕訳情報を作成できること。 仕訳帳は次の仕訳を作成すること。 ・建設仮勘定の増加は費目毎に仕訳が作成できること。 ・建設仮勘定の減少は対象勘定科目毎に仕訳が作成できること。		必須	
	25		資産整理台帳(建設仮勘定)に入力した勘定科目毎の当年度完成資産の金額を用いて建設仮勘定の仕訳情報を作成できること。		必須	
	26		資産整理台帳(建設仮勘定)に入力した調査判明(増・減)を用いて建設仮勘定の仕訳情報を作成できること。		必須	
	27		作成された仕訳情報は財務会計システムに取り込み可能な形式で出力することができること。		任意	

【別紙1】機能要件一覧

《凡例》

◎機能区分

必須…必ず何らかの方法で実現すべき「必須機能」

任意…必須ではないが、実現を望む「任意機能」

大分類	中分類	小分類	機能概要	項番	機能要件	機能区分
				28	(附属明細書出力) 建設仮勘定の情報から有形固定資産の明細、有形固定資産の行政目的別明細を作成し、会計単位、一般会計等、全体、連結、全庁、部局、所属単位で集計・出力できること。 出力帳票はEXCEL形式等、加工できる様式で出力できること。	任意
	整合性 チェック		財務会計システムとDXツールに登録した固定資産金額の一致を双方で確認する。	29	(財務会計システムとの整合性確認) 財務会計システムに登録のある固定資産番号、金額、会計、勘定科目等のデータを取り込み、DXツール側で論理チェック(※)を実行し、入力内容に不整合が生じた場合、エラー情報を提供できること。 ※次のいずれかの仕組みを想定 ・DXツール内の登録データと取り込んだ財務会計システムのデータをDXツール内で不一致リストを作成し出力する。 ・DXツール内の登録データを出力し、財務会計システムのデータと外部ツールで不一致リストを作成する。	必須
	締め処理		該当年度の建設仮勘定の登録・修正を行えないように設定を行う。	30	(締め処理) 締め処理を行うことで当該年度の建設仮勘定の異動登録を不可にできること。 締め処理の取消しを行うことができること。 締め処理を行う前に翌年度の建設仮勘定の異動ができること。 締め処理を行う前に入力した翌年度の異動情報は当該年度の固定資産台帳や仕訳に影響を及ぼさないこと。	任意

## 【別紙2】帳票要件一覧

### 《凡例》

#### ◎出力形式

EXCEL … 帳票形式で作成

CSV … CSV出力の他、検索・ECU対応も必要

※ EXCEL帳票については、CSV出力も同時に必要となる場合がある。

#### ◎レイアウト指定

○ … 本市にてレイアウトを指定

#### ◎機能区分

必須 … 必ず何らかの方法で実現すべき「必須機能」

任意 … 必須ではないが、実現を望む「任意機能」

項番	区分	帳票名	帳票概要	出力形式	レイアウト指定	機能区分	取り扱う主要なデータ	機能要件No
1	建設仮勘定の入力・管理機能	検索リスト	建設仮勘定に係る確認用データ	CSV	×	必須	建設仮勘定ID、事業名称（施設名等）、事業コード、完成後勘定科目（事業用・インフラ）、完成後の名称、事業期間、目的別資産区分、財産区分、会計区分、所管名（局・区、課）	19 20
2		固定資産台帳	固定資産台帳公表用のデータ	EXCEL	×	必須	台帳番号、資産名称、所在地、数量、有形固定資産／無形固定資産、事業用資産／インフラ資産／所有外管理資産／物品、土地／建物等の別、取得年度、法定耐用年数、取得価額等、減価償却費、減価償却累計額、期末簿価、会計区分、行政目的区分、評価基準・評価方法、売却可能区分、売却可能価額、リース区分、所管部署、施設等コード	21 22 23
3		仕訳帳	公会計財務書類作成用データ	EXCEL	×	必須	年度、会計、局、所属、款、項、目、事業、節、細節、取引件名、借方勘定科目、借方金額、貸方勘定科目、貸方金額	27

## 【別紙2】帳票要件一覧

### ≪凡例≫

#### ◎出力形式

EXCEL … 帳票形式で作成

C S V … CSV出力の他、検索・ECU対応も必要

※ EXCEL帳票については、CSV出力も同時に必要となる場合がある。

#### ◎レイアウト指定

○ … 本市にてレイアウトを指定

#### ◎機能区分

必須 … 必ず何らかの方法で実現すべき「必須機能」

任意 … 必須ではないが、実現を望む「任意機能」

項番	区 分	帳票名	帳票概要	出力形式	レイアウト指定	機能区分	取り扱う主要なデータ	機能要件No
4		附属明細書（有形固定資産の明細、有形固定資産の行政目的別明細）	公会計財務書類作成用データ	EXCEL	×	必須	年度、会計、勘定科目名称、増減事由、行政目的別名称、金額	28
5		不一致リスト	D Xツールの登録内容確認用データ	EXCEL	×	必須	固定資産番号、財務会計システム登録の本勘定振替金額、D Xツール登録の本勘定振替金額、金額の差分	29



**【参考2】参考資料**

No.	参考資料	備考
1	資産整理台帳（建設仮勘定）	【別紙3】参考資料（現行の照会用エクセル様式）
2	既存の建設仮勘定台帳	—
3	固定資産台帳	<a href="#">総務省マニュアル記載の別紙2「固定資産台帳の記載項目」</a>
4	仕訳帳（別調達の財務会計システムに取り込み可能な形式）	仕訳帳は導入する財務会計システムに合わせて柔軟に作成できるようにすること。
5	附属明細書（有形固定資産の明細、有形固定資産の行政目的別明細）	<a href="#">総務省マニュアル記載の附属明細書</a>